

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果をふまえた指導改善策

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記のような取組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

中学校第3学年・義務教育学校9年生の生徒

3. 調査の内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

4. 調査日時

令和4年4月19日（火）

II 学力調査の結果【中学校・義務教育学校後期課程】

1. 教科に関する調査結果(平均正答率※)

	国語	数学	理科
全国	69.0%	51.4%	49.3%
広島県	69.0%	50.0%	49.0%
府中市	68.0%	49.0%	48.0%
上下中	68.0%	40.0%	48.0%

※平均正答率とは、「生徒の正答数の平均」÷「設問数」の値を、%で表わしたものです。

2 調査問題の趣旨・内容

区分	調査問題の趣旨・内容例
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する。 ・論理の展開などに注意して聞く。 ・自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す。 ・助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う。 ・文脈に即して漢字を正しく書く。 ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。 ・表現の技法について理解する。 ・事象や行為、心情を表す語句について理解する。 ・場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える。 ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する。 ・行書の特徴を理解する。 ・漢字の行書の読みやすい書き方について理解する。 ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・自然数を素数の積で表すことができる。 ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。 ・反例の意味を理解している。 ・一次関数の変化の割合の意味を理解している。 ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している。 ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。 ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。 ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。 ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる。 ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。 ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。 ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。 ・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる ・モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる。 ・観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる。 ・継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる ・飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる。 ・化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる。 ・水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる。

- ・化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる。
- ・節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる
- ・複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる。

3 調査結果にみられる特徴と課題及び今後の改善策

【国語】特徴と課題

- ◇論理の展開などに注意して聞くことができる。[1 (二)] (正答率 71.4% : 全国 65.1% 差+6.3%)
- ◇自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができる。
[1 (三)] (正答率 57.1% : 全国 51.8% 差+5.3%)
- ◆自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる。
[2 (三)] (正答率 42.9% : 全国 46.5% 差-3.6%)
- ◆表現の技法について理解している。[3 (一)] (正答率 25.0% : 全国 52.5% 差-27.5%)
- ◆場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。[3 (四)]
(正答率 64.3% : 全国 73.8% 差-9.5%)

◇…相当数の生徒ができています点 ◆…課題のある点

【国語】改善策

- ・自分の考えや気持ちについて根拠を明確にして書く力を身に付けるために、複数の事例や専門的な立場からの知見を示して書くように指導する。また、書いた文章を相互に読み合い、根拠の明確さや適切さについて見直すよう指導する。
- ・表現の技法について理解を深めるために、それぞれの表現が文章の中でどのような効果をもたらしているか、自分が表現するときどのように活用すればよいかについて考える機会を意図的に設ける。
- ・文章の構成や展開を理解し、内容を的確にとらえる力を身に付けるために、目的をもって文章を読み、必要な情報を取り出すことができるか、どうすればその情報にたどりつくことができるか意識して読む指導をする。

【数学】特徴と課題

- ◇データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる
(正答率 53.6% : 全国 44.0% 差+5.3%)
- ◇問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる
(正答率:75.0%:全国 73.8% 差+3.2%)
- ◆自然数を素数の積で表すことができる(正答率:14.3%:全国 52.2% 差-37.9%)
- ◆簡単な連立二元一次方程式を解くことができる(正答率:42.9%:全国 74.5% 差-31.6%)

- ◆与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる(正答率:32.1%:全国 54.6% 差-22.5%)
- ◆目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる(無答率:32.1%:全国 20.0% 差-12.1%)

【数学】改善策

- ・自然数を素数の積で表すことが理解できていない。自然数を素因数分解することを通して、約数や倍数の性質などに見方を広げ、素因数分解の必要性を考える授業を進める。
- ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができていない。二つの文字のうち一方の文字を消去して一元一次方程式にして解かせる。生徒が気付いて解けるように授業を進める。
- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができていない。表からグラフの書き方や比例・反比例・一次関数の系統性を意識した授業を進める。
- ・式による説明することができていない。倍数の説明の仕方を復習して説明文が書けるように授業を進める。
- ・定期試験・単元テスト等で授業改善の効果測定を行う。復習テスト等で単元ごとの課題を把握して弱い所の復習をする。

【理科】特徴と課題

- ◇モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみることができる(正答率 92.9% : 全国 78.5% 差+14.4%)
- ◇複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性を見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみることができる(正答率 78.6% : 全国 65.6% 差+13.0%)
- ◆化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる(正答率 46.4% : 全国 80.1% 差-33.7%)
- ◆日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる(正答率 28.6% : 全国 44.2% 差-15.6%)
- ◆知識・技能(正答率 35.2% : 全国 46.1% 差-10.9%)

◇…相当数の生徒ができている点 ◆…課題のある点

【理科】改善策

- ・化学反応式を作ったり、グラフを作成したりするような技能を、練習を積むことで習得させる。
- ・自然にかかわる事象の経験が不足していることを補うため、実験や観察を日常生活とのかかわりに視点を当てて実施する機会を増やす。
- ・知識・技能を問う問題の正答率に大きな課題があることから基礎的な知識・技能を定着させる取り組みが必要である。授業でタブレットドリルやプリントなどを活用して定着を図る時間を設定する。

Ⅲ 学習状況調査の結果

1 学習状況調査（生徒質問紙）の結果にみられる傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目
(29)今住んでいる地域の行事に参加していますか(67.8%:全国 40.0% 差+27.8%)
(30)地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか(60.7%:全国 40.7% 差+20.0%)
肯定的な回答の割合が全国平均値よりも低かった項目
(4) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか(50.0%:全国 69.5% 差-19.5%)
(21)学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)2時間以上(17.8%:全国 35.2% 差-17.4%)

2 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

<p>◎ 外部から講師を招いてスマホ安全教室を開催し、保護者にも一緒に話を聞いてもらう機会を設けることでスマホの使い方等をしっかりと親子で考えさせ、約束を守って使えるようにさせたい。また、日頃からスマホ等の電子機器の使い方などについて道徳の授業等でも行い、正しく使える習慣を身に付けさせたい。</p> <p>◎ 家庭学習の必要性を生徒に感じさせるとともに各教科の授業の中で出された課題に計画を立てて見通しを持って取り組む力を身に付けさせる。また、参観日や懇談、通信等を利用して保護者と協力して、家庭で学習する習慣を身に付けさせる。</p>
